

モンテッソーリ教育「敏感期」について ①

このコラムでは不定期にモンテッソーリ教育のことをお伝えしています。

「モンテッソーリ教育」とは、イタリア人の女性医学博士であり、幼児教育の専門家でもあるマリア・モンテッソーリが編み出した教育方法のことです。

■モンテッソーリ教育の基本的な考え方

子どもを観察することによって見出された事実に基づく科学的な教育法です。

その基本的な考え方は「子どもには生来、自立・発達していこうとする力＝自己教育力があり、その力が発揮されるためには発達に見合った環境（物的環境・人的環境）」が必要である」というものです。

大人がすべきことは、何かを直接子どもに教え込むことではありません。

子どもの発達がどのような形ですすんでいくかを知り、子どもを観察し、環境を整えることです。

■もともとは生物用語である「敏感期」とは？

自然（生命）の法則に組み込まれている、子どもの成長を促す一過程であるのが「敏感期」です。

特定の事柄に対して敏感になり、その特定の事柄をいとも簡単に吸収する時期のことをさします。

この時期にさしかかった子どもは「自己教育力」を発揮し、集中して繰り返し取り組む姿が見られます。

敏感期には以下のような特徴があります。

- ① 世界中のどの子どもにも、だいたい同じような時期に現れる。
- ② この時期は、敏感になっている事柄を苦勞なく身につけられる。敏感期を過ぎてから身につけようとすると、かなりの努力が必要になる。
- ③ ある一定時期を過ぎると、自然に消えてしまい、二度と現れない。

■代表的な敏感期の種類と時期

- | | | | |
|----------|----------|---------------|-------|
| • 言語の敏感期 | 0～6 歳 | • ちいさいものへの敏感期 | 1～3 歳 |
| • 運動の敏感期 | 0～6 歳 | • 礼儀と作法の敏感期 | 3～6 歳 |
| • 感覚の敏感期 | 0～6 歳 | • 数の敏感期 | 4～6 歳 |
| • 秩序の敏感期 | 6 か月～4 歳 | • 文化の敏感期 | 6 歳～ |

* 年齢はあくまで目安で個人差があります。

日々の中で子どもの理解しがたい行動でイライラすることもあるかと思います。

「敏感期」を知ると、今までいたずらや反抗期だと思っていた子どもの姿が、成長しようとしている光り輝く姿に見えてきます。（ちょっと大げさ？ いえいえ、そんなことはありません♪）

7月号ではそれぞれの敏感期についてお伝えいたしますので、どうぞお楽しみに！

（飯塚）